

NEC iStorageシリーズ iStorage NS450

2

セットアップ

本装置お使いになれるまでの手順について説明します。

「設置と接続」(36ページ)

本体の設置にふさわしい場所や背面のコネクタへの接続について説明しています。

「システムのセットアップ」(50ページ)

本製品を使用するための初期設定の方法や、オプションソフトウェアについて説明します。

設置と接続

本体の設置と接続について説明します。





設置





本装置はEIA規格に適合したラックに取り付けて使用します。

ラックの設置

ラックの設置については、ラックに添付の説明書を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。

ラックの設置作業は保守サービス会社に依頼することもできます。

 警告	
  	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡するまたは重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 指定以外の場所で使用しない ● アース線をガス管につながない

 注意	
  	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1人で搬送・設置をしない ● 荷重が集中してしまうような設置はしない ● 1人で部品の取り付けをしない ● ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない ● 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない ● 定格電源を越える配線をしない ● 腐食性ガスの発生する環境で使用しない

次の条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所にラックを設置したり、ラックに本装置を搭載したりすると、誤動作の原因となります。

- 装置をラックから完全に引き出せないような狭い場所。
- ラックや搭載する装置の総重量に耐えられない場所。
- スタビライザが設置できない場所や耐震工事を施さないと設置できない場所。
- 床におうつや傾斜がある場所。
- 温度変化の激しい場所（暖房機、エアコン、冷蔵庫などの近く）。

- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガス（二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど）の存在する場所。また、ほこりや空気中に腐食を促進する成分（塩化ナトリウムや硫黄など）や導電性の金属などが含まれている場所。
- 薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 強い磁界を発生させるもの（テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど）の近く（やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください）。
- 本装置の電源コードを他の接地線（特に大電力を消費する装置など）と共有しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ（商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど）を発生する装置の近く（電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください）。





ラック内部の温度上昇とエアフローについて

複数台の装置を搭載したり、ラックの内部の通気が不十分だったりすると、ラック内部の温度が各装置から発する熱によって上昇し、本装置の動作保証温度（10℃～35℃）を超え、誤動作をしてしまうおそれがあります。運用中にラック内部の温度が保証範囲を超えないようラック内部、および室内のエアフローについて十分な検討と対策をしてください。
本装置では、前面から吸気し、背面へ排気します。

ラックへの取り付け/ラックからの取り外し


本装置をラックに取り付けます（取り外し手順についても説明しています）。


 **警告**



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 規格外のラックで使用しない
- 指定以外の場所に設置しない

 **注意**

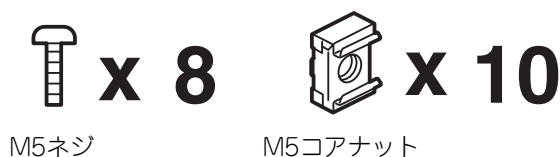


装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 1人で持ち上げない
- 指を挟まない
- ラックから引き出した状態にある装置に荷重をかけない

取り付け部品の確認

ラックへ取り付けるために次の部品があることを確認してください。



必要な工具

ラックへ取り付けるために必要な工具はプラスドライバとマイナスドライバです。

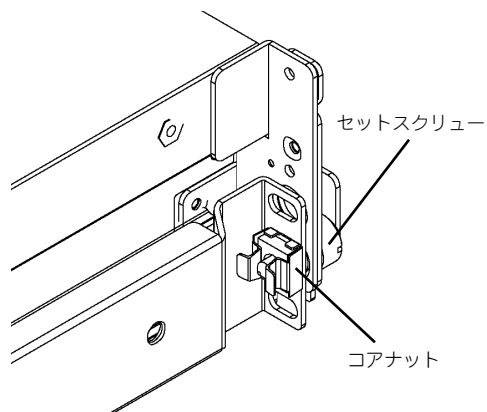
取り付け手順

本装置は弊社製および他社ラックに取り付けることができます。次の手順でラックへ取り付けます。

● ラック搭載前の準備

装置運搬時の脱落防止のために、スライドレールがネジで固定されています。ラックへ取り付ける前に、コアナットを取り外してスライドレールを自由な状態にしてください。

コアナットを手で固定してからセットスクリューを回し、コアナットを取り外してください。取り外したコアナットは大切に保管してください。

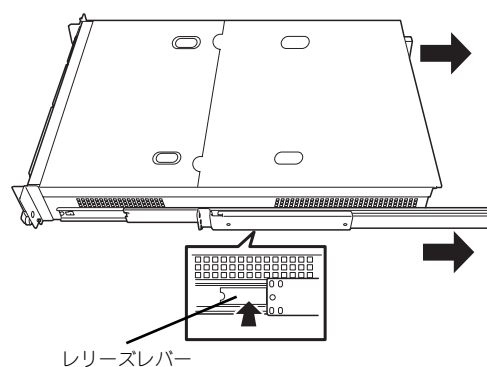


● レールアセンブリの取り外し

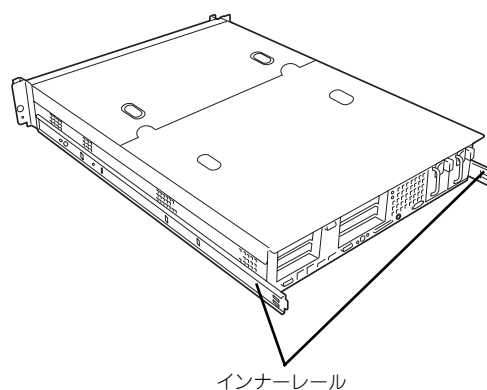
本体に取り付けられているスライド式のレールを取り外します。

レールを持ってゆっくりと装置後方へスライドさせてください。しばらくすると、「カチッ」とロックされます。

本体左右の側面にあるリリースレバーを押して、ロックを解除しながら本体から取り外します。



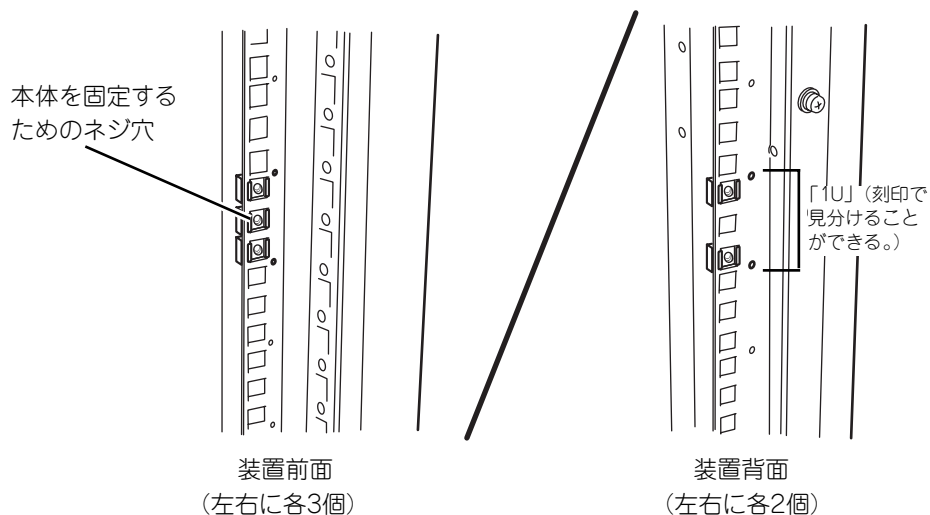
レールアセンブリを取り外すと、本体はネジ止めされたインナーレールのみが取り付けられた状態になります。



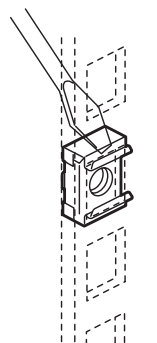
- レールアセンブリは、取り外したインナーレールに再度取り付けます。どちら側のインナーレールから取り外したものかわかるように印を付けるなどして区別してください。複数の本装置を設置する際もどの装置のどちら側のインナーレールから取り外したものかわかるように区別してください。
- レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

● コアナットの取り付け

装置に添付のコアナットをラックに取り付けます。

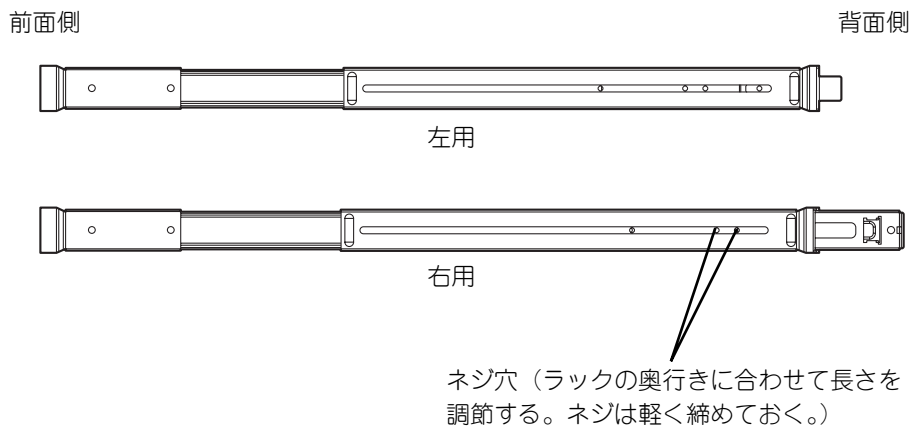


コアナットはラックの内側から取り付けます。一方のツメを引っかけてから、マイナスドライバなどを使ってもう一方のツメをラックのフレームに引っかけます。



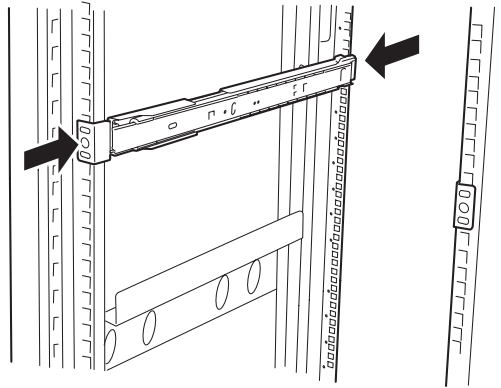
● レールアセンブリの取り付け

レールアセンブリには左用と右用があります。下図を参照して左用、右用を確認してください。

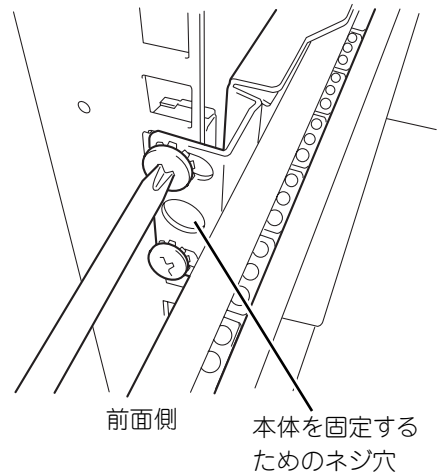


1. コアナットを取り付けた場所に
レールのフレームを合わせる。

コアナットとレールのフレームで
ラックのフレームを挟むように位
置させ、レールの長さを調節して
ください。



2. 前面と背面をネジで固定する (各2
本)。



3. レールの長さを調節するネジを固定する。

- 本体の取り付け

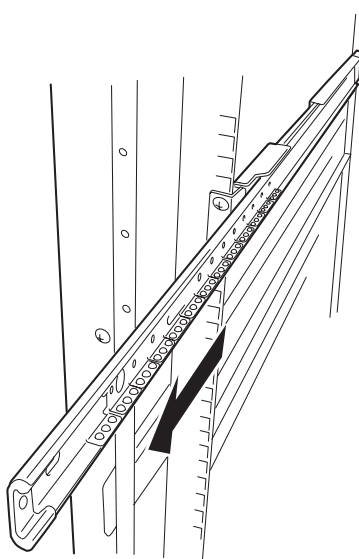
⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 1人で持ち上げない
- 指を挟まない

1. 左右のレールアセンブリのスライドレールをロックされるまで引き出す。

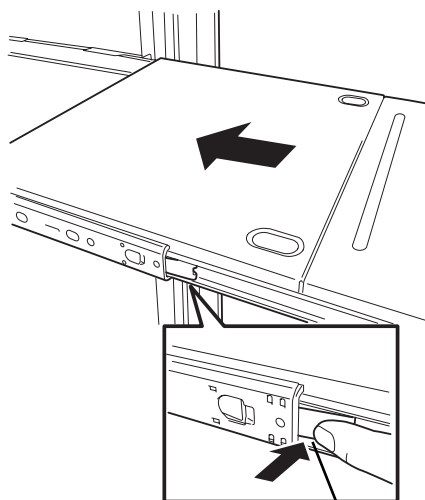


2. 2人以上で本装置をしっかりと持ってラックへ取り付ける。

本装置側面のインナーレールをラックに取り付けたレールアセンブリに確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。

途中で本装置がロックされたら、側面にあるリリースレバー（左右にあります）を押しながらゆっくりと押し込みます。

初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがあります。強く押し込んでください。



リリースレバー



レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

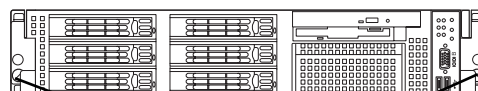
3. 本装置を何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。



- ラック内の他装置と隣接する位置に本装置を取り付ける際は、他装置と本装置の筐体が干渉していないことを確認してください。もし干渉している場合は、他装置と干渉しないよう調整してレールアセンブリを取り付け直してください。
- スライドレール部分の動作を確認してください。スライドレールがラックのフレームに当たり、引き出せない場合は、スライドレールを取り付け直してください。

● 本体の固定

1. 本体をラックへ完全に押し込む。
2. 前面の左右にあるセットスクリューでラックに固定する。
3. フロントベゼルを取り付ける。



セットスクリュー

取り外し手順

次の手順で本体をラックから取り外します。

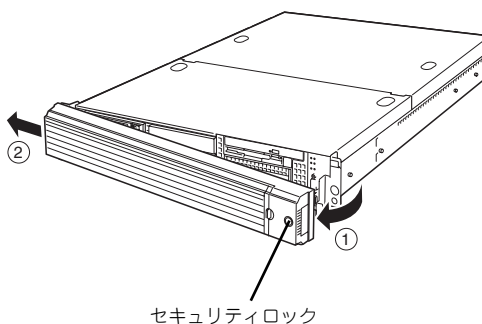
⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 1人で持ち上げない
- 指を挟まない
- ラックから引き出した状態にある装置に荷重をかけない
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない
- 動作中に装置をラックから引き出さない

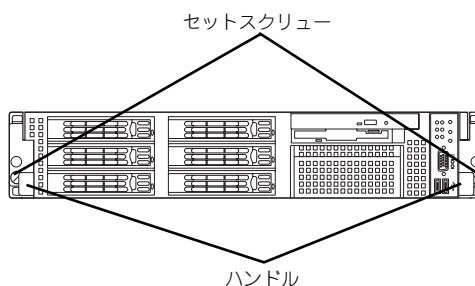
1. セキュリティロックを解除してフロントベゼルを取り外す。
2. 本装置の電源がOFFになっていることを確認してから、本装置に接続している電源コードやインターフェースケーブルをすべて取り外す。



3. <オプションのケーブルアームを取り付けている場合のみ>
ケーブルアームを本装置から取り外す。

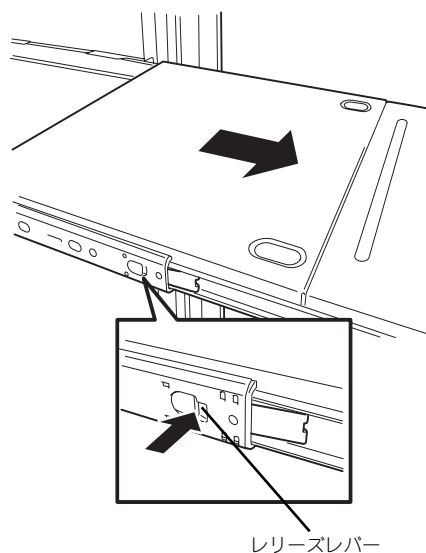
4. 前面のセットスクリュー 2本をゆるめる。
5. ハンドルを持ってゆっくりと静かにラックから引き出す。

「カチッ」と音がしてラッチされます。



6. 左右のリリースレバーを押して
ラックを引き出す。

ラックの機構部品も取り外す場合は、「取り付け手順」を参照して取り外してください。



- 複数人で装置の底面を支えながらゆっくりと引き出してください。
- 装置を引き出した状態で、引き出した装置の上部から荷重をかけないでください。装置が落下するおそれがあり、危険です。
- レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

接 続

接続するケーブルは、LANケーブルと添付の電源コードです。それ以外のコネクタには接続する必要はありません。ただし、次の場合は、それぞれのケーブルを接続します。

- 外付けのSCSIバックアップファイル機器やディスク増設筐体と接続する場合は、SCSIケーブルを接続します。
- UPS機器と接続する場合は、シリアルポート1コネクタにケーブルをシリアルケーブルを接続します。
- 本装置を直接操作する場合はディスプレイコネクタとキーボードコネクタにそれぞれの機器を接続します（通常の運用では接続しません）。

ネットワークの接続について

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- めれた手で電源プラグを持たない
- アース線をガス管につながらない

注意

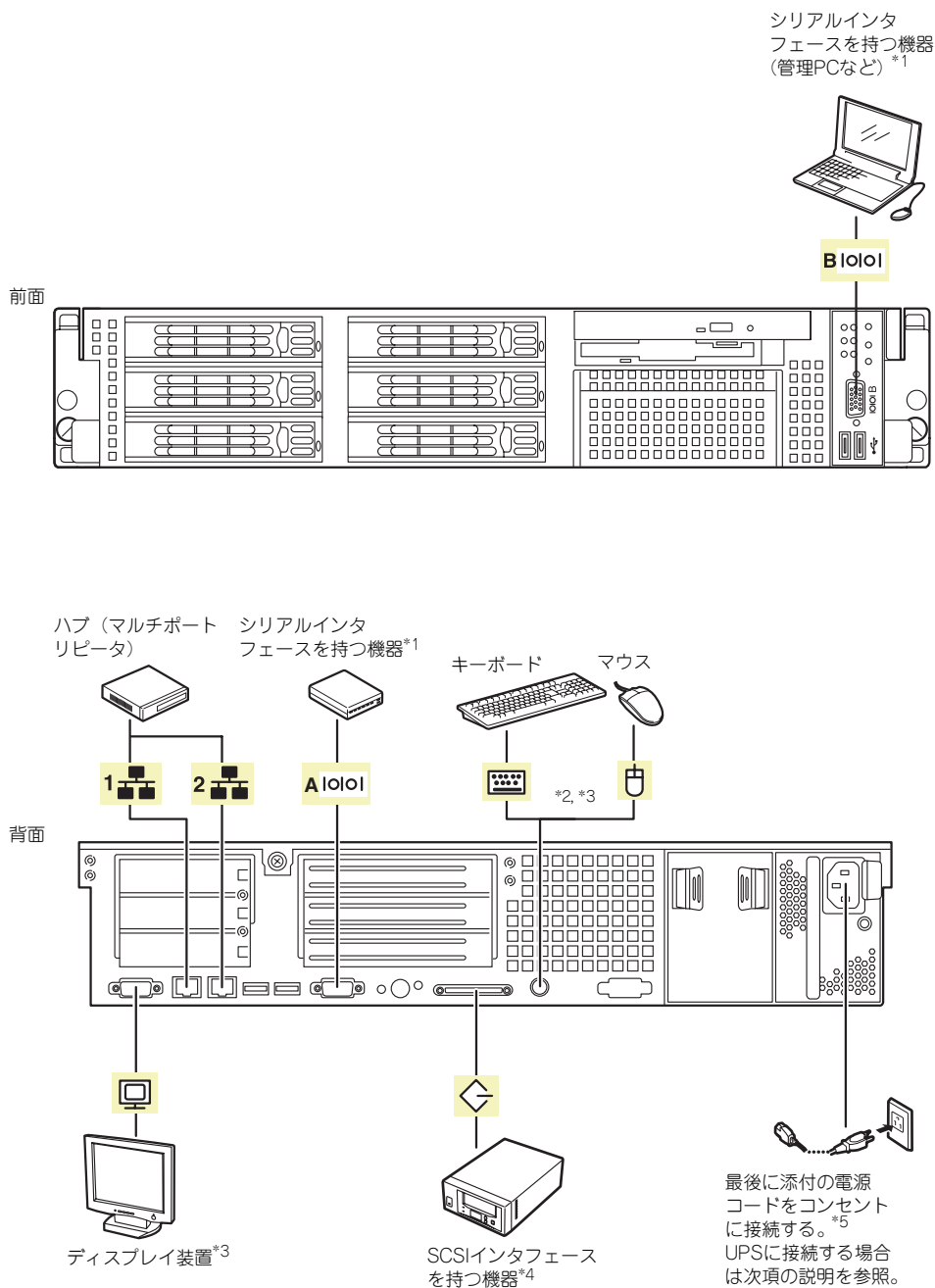


装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない
- 電源コードを接続したままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない
- 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない
- 添付の電源コードを他の装置や用途に使用しない



- 初めてのセットアップでは本体標準装備のLANポート1にのみ接続して初期セットアップを完了させてください。初期セットアップの完了後、2番目のLANポートも使用する場合はLANケーブルを接続後、WebUIを使用して、設定します。
オプションのLANコントローラについても、1枚単位で増設してください。
- AFT/ALBを利用したフォーミングの設定では、設定の対象となるLANコントローラをまちがえないよう注意してください。
- 本体および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- 弊社以外（サードパーティ）の周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が本装置で使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本装置で使用できないものがあります。
- SCSIの規格によってケーブル長（SCSI機器内部の接続ケーブル長を含めたケーブルの全長）には制限があります。詳しくはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。
- シリアルポートコネクタには専用回線を直接接続することはできません。
- 回線に接続する場合は、認定機関に申請済みのボードを使用してください。
- 電源コードやインタフェースケーブルをケーブルタイで固定してください。
- ケーブルがラックのドアや側面のガイドレールなどに当たらないようフォーミングしてください。
- 電源コードは装置のACインレット部分で少したるませる程度にフォーミングしてください。装置を引き出したときに電源コードが抜けるのを防ぐためです。
- 電源コードのプラグ部分が圧迫されないようにしてください。



*1 専用回線へ直接接続することはできません。

管理PCなどのコンソールの接続はシリアルポートBのみ可能です (BIOSの設定が必要)。

*2 添付の分岐ケーブルを使用します。

*3 保守の際にのみ接続する。

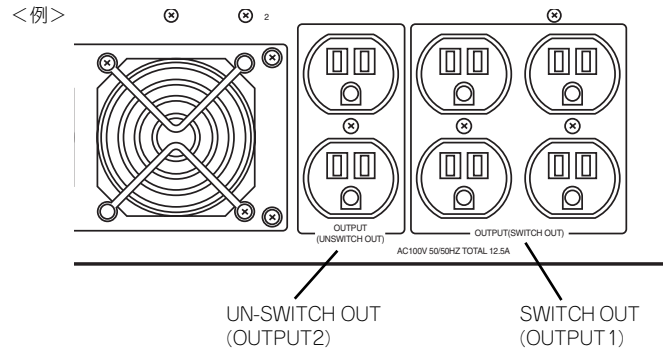
*4 内部SCSIコネクタとの排他使用。

*5 電源コードは、15A以下のサーキットブレーカに接続すること。

無停電電源装置(UPS)への接続について

本体の電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続する場合は、UPSの背面にあるサービスコンセントに接続します。

UPSのサービスコンセントには、「SWITCH OUT」と「UN-SWITCH OUT」という2種類のコンセントがあります（「OUTPUT 1」、「OUTPUT 2」と呼ぶこともあります）。



UPSを制御するアプリケーション(ESMPRO/AutomaticRunningControllerなど)から電源の制御をしたい場合は、SWITCH OUTに電源コードを接続します。

常時給電させたい場合は、UN-SWITCH OUTに電源コードを接続します（24時間稼働させるモデムなどにはこのコンセントに接続します）。

本体の電源コードをUPSに接続している場合は、UPSからの電源供給と連動（リンク）させるために本体のBIOS設定を変更してください。

BIOSの「Server」－「AC-LINK」を選択すると表示されるパラメータを切り替えることで設定することができます（UPSを利用した自動運転を行う場合は、「Power On」を選択してください）。詳しくは160ページを参照してください。

システムのセットアップ

システムのセットアップは専用の初期設定ツールを使います。初期設定ツールは「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMに格納されています。

セットアップの準備

本装置を設定する前に、本体のLANポート1に割り当てる次の情報を準備してください。「各部の名称と機能」(10ページ)を参照して、LANポートの位置を確認してください。

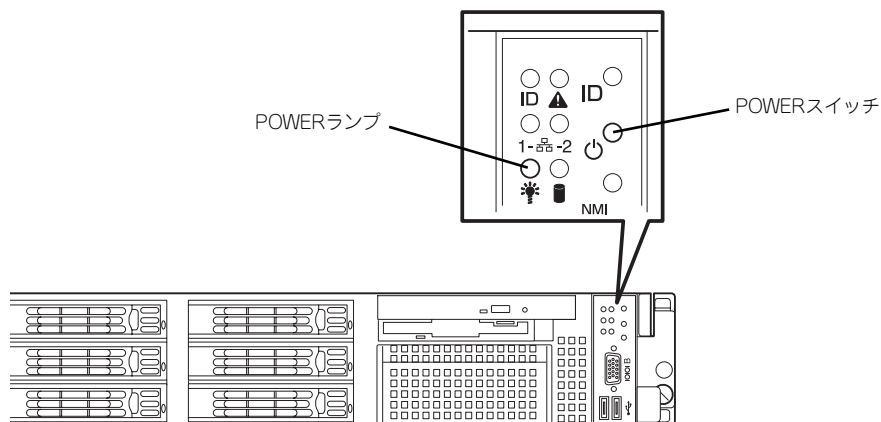
- コンピュータ名
- 管理者パスワード
- IPアドレスとマスク値

電源のON

システムの電源をONにします。

1. 本体の電源コードがコンセントに接続されていること、および本体のLANポート1がネットワーク環境として使用するハブに接続されていることを確認する。
2. 本体の電源をONにする。

本体が起動を開始します。本装置の初回起動は、起動時のピープ音で確認します。ピープ音のパターン（ピープ音を2回長く4回短く）を4回繰り返したら、正常に起動したことになります。



初期設定

管理ツール「WebUI」を使用できるようにするために、本装置の初期設定を行います。初期設定ツールの実行は、本装置と同じネットワーク上にあるWindowsマシン (Windows Server 2003、またはWindows 2000/XP、Windows NT4.0)と添付の「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMを使用します。



詳細については、初期設定ツールのヘルプを参照してください。初期設定ツールを起動せずにヘルプを参照したい場合は、以下のファイルを開いてください。

「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMの¥NASAP¥iStorageNSsetup.chm

1. 任意のWindowsマシンのCD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMをセットする。

Autorun機能によりメニューが自動的に表示されます。表示されない場合は、CD-ROMドライブ内の「¥MC¥1ST.EXE」を実行してください。

2. [ソフトウェアのセットアップ] をクリックして、表示されたメニューから[初期設定ツール] をクリックする。

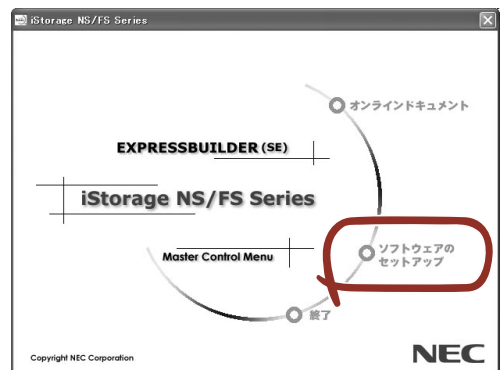
初期設定ツールが起動し、エンドユーザーライセンス契約(EULA)の確認画面が表示されます(初回のみ)。

3. EULAを確認の上、同意する場合は[はい] をクリックする。

自動発見ウィンドウが表示されます。

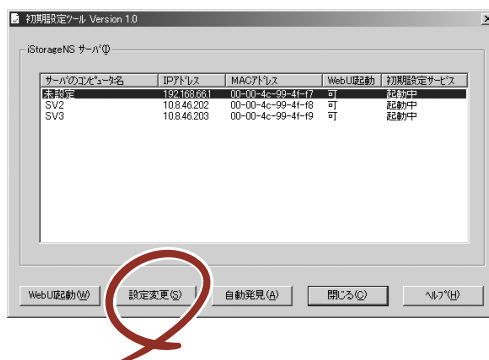
4. [開始] をクリックする。

iStorage NSの一覧が表示されます。



- WebUI起動の表示が「確認中」から「可」または「不可」に変わったら、設定したいiStorage NSを選択し、[設定変更] をクリックする。

設定変更画面が表示されます。

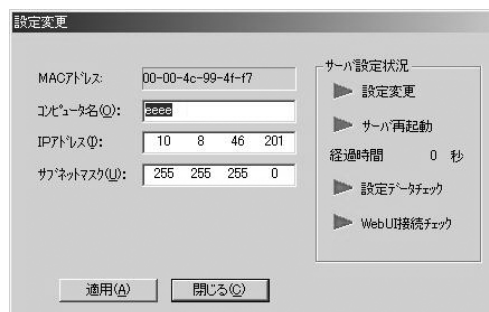


重要

DHCP サーバが存在する場合、WebUI 起動が「可」となり、管理ツール「WebUI」が起動します。「WebUI」を使って設定を変更してください。このとき、通常使用するブラウザの設定を「Internet Explorer 6.0」以降にしておいてください。詳細については、「WebUIでの設定」(53ページ)を参照してください。

- 「コンピュータ名」欄にコンピュータ名を入力する。

ネットワーク上に同一のコンピュータ名を持つマシンが存在すると、設定変更後の再起動ができなくなります。コンピュータ名が重複していないことを確認してください。



- 「IPアドレス」欄にIPアドレス
「サブネットマスク」欄にサブネットマスクを入力する。



重要

- IPアドレスの設定を間違えると、設定変更後の再起動や管理ツール「WebUI」からの接続ができない場合があります。IPアドレスに誤りがないことを確認してください。
- 設定するIPアドレス/サブネットマスクは、初期設定ツールを動作させているマシンと同一ネットワークになるように設定してください。

- 「適用」をクリックする。
- 設定変更を確認するウィンドウが表示されたら、[OK] をクリックする。

サーバ設定の変更が始まり、サーバ設定状況の内容が順次更新されます。

- 完了メッセージが表示されたら、[OK] をクリックする。

以上で、本装置の初期設定が完了し、WebUIから管理できる状態になりました。



ヒント

初期設定ツールウィンドウで設定したいサーバを選択して[WebUI]をクリックすると、WebUIが起動します。このとき、通常使用するブラウザを「Internet Explorer 6.0以降」に設定しておく必要があります。

WebUIでの設定

WebUIが起動したら、以下を参照して必要な設定を行います。



WebUIの起動方法は、「本装置への接続」（33ページ）を参照してください。

1. WebUIの「ネットワーク」－「識別」の画面を開き、以下を参照して必要な設定を行う。

初期設定ツールで初期設定を行っていない場合は、「サーバー名」を設定してください（初期設定ツールでは「コンピュータ名」に該当します）。

ワークグループに参加させる場合は、「ワークグループ」を選択し、本装置を参加させるワークグループ名に変更します。

ドメインに参加させる場合は、「ドメイン」を選択し、ドメインコントローラに登録されている「ドメイン名」、「ユーザー名」および「パスワード」を設定し、[OK]をクリックします。

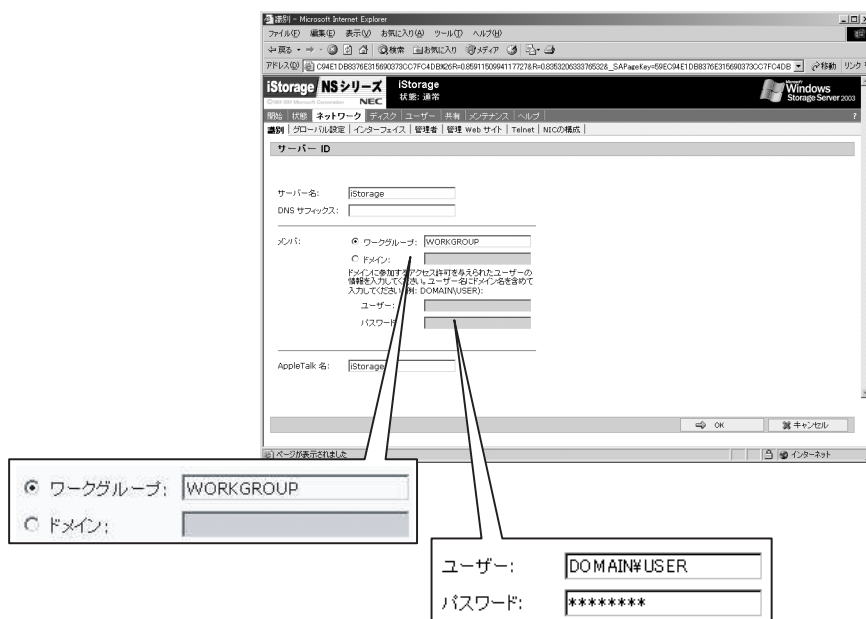
入力したドメイン名、ユーザー名が確認される（環境により10数分かかります）と再起動の画面が表示されます。



ドメインに参加させる場合、「ユーザー名」には必ず「ドメイン名¥」を先頭につけて「ドメイン名¥ユーザー名」と入力してください。



初期状態では、Workgroupというワークグループのメンバーに設定されています。



2. 「AppleTalk名」には設定した本装置のコンピュータ名と同じ名前を入力する。



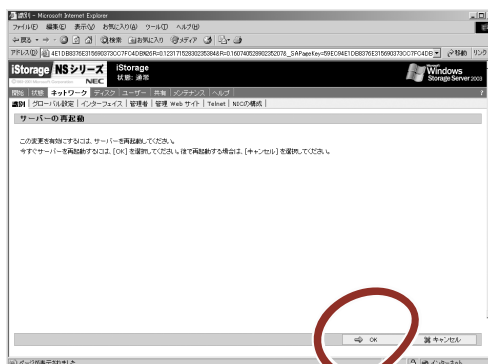
サーバー名とAppleTalk名は合わせておくと便利です。

3. [OK] をクリックして再起動する。

再起動が完了すると、ドメインまたはワークグループへの参加が完了します。

右の画面が表示されない場合は、一度ブラウザを終了し、WebUIを再起動してください。

それでもアクセスできない場合には、本体のPOWERスイッチを押して終了後、電源を入れ直してください。詳細は1章の「本製品について」の「強制電源OFF」(26ページ)や「POWERスイッチ(電源のON/OFF)」(23ページ)を参照ください。



その他の設定について

初期設定が完了しても、シャドウコピーなどNASの各種機能を使用するための詳細設定や、あらかじめインストールされている管理アプリケーションの固有のセットアップが必要です。管理者ガイドおよび2章を参照して、必要なセットアップを行ってください。本装置にインストール済みのアプリケーションは次のとおりです。

- ESMPro/ServerAgent
- Power Console Plus
- エクスプレス通報サービス

すべてのセットアップが完了したら、本装置のシステム情報のバックアップをとります。バックアップはEXPRESSBUILDER (SE) を使用します。EXPRESSBUILDER (SE) の起動方法やシステム情報のバックアップの手順については、「EXPRESSBUILDER (SE)」(77ページ)を参照してください。



重要

- ドメイン環境で、NFS (UNIX) 接続を利用する場合、ドメインコントローラにServices for UNIXをインストールする必要があります。詳細については管理者ガイドを参照してください。
- Power Console Plusを使ってディスクアレイコントローラや接続されているハードディスクドライブ (アレイディスク) を管理するために詳細な設定をしてください。詳しくは、オンラインドキュメントで説明しています。
- iStorage NSソフトウェアを再インストールする場合は222ページを参照してください。

オプションソフトウェアの追加

本製品にはいくつかのオプションソフトウェアがあります。オプションソフトウェアは工場出荷時にはインストールされていませんので、ご使用前にインストールする必要があります。本製品をサポートするオプションソフトウェアについては、販売店などにご確認ください。

各オプションソフトウェアをインストールする場合は、まずは以下の手順で本装置にアクセスします。

1. WebUIを起動し、[メンテナンス]をクリックする。
2. [リモートデスクトップ]をクリックする。
3. オプションソフトウェアのCD-ROMを本体のDVD-ROMドライブにセットする。
4. リモートデスクトップ内でエクスプローラを起動し、CD-ROM内のセットアップ用のプログラムを実行する。

以降のセットアップの手順については、各オプションソフトウェアのマニュアルに従ってください。



Autorun 機能でセットアッププログラムが起動するオプションソフトウェアについては、リモートデスクトップ上では自動起動しませんので、インストールディスクの中の「autorun.inf」の中に記載されているセットアッププログラムを実行してください。



オプションソフトウェアをインストールする場合は、各ソフトウェアの必要システム情報を参照してください。

